

■ 2023年度 専門学校ESPエンタテインメント大阪 自己評価報告書 ■

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

大項目	点検・評価項目	自己評価	
理念 目的 育成人材像	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	4	
	1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4	
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4	
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「個性を活かしながら、自立した活動を確立する」ことを最大のテーマとして発信している。</li> <li>・業界から求められる人物像を育成人材像として捉え、必要とされる専門知識・技術以外にも社会に適合する人物となる「人間力」の養成に注力している。</li> <li>・関連企業と連携し「超現場主義」という方針を掲げ、業界のニーズに対応した即戦力となる実践的な研修を提供している。</li> <li>・関連企業やアーティストの協力を得て、業界の前線で働く方たちの特別授業を多数開催した。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化する業界ニーズに応え、なおかつ学生の希望も鑑みながら、常に社会のニーズ、動向に目を向け、時代の変化に対応した産学協同プログラムをより多く実施していく。</li> <li>・学生が自身の問題や目標を自力で解決・達成できるよう、学生の「自立」を促すキャリア養成プログラムを確立させる。</li> <li>・教育の理念、目的、育成人材像について、学生、保護者、社会へと、より浸透させるべく対外広報ツールなどを活用し、より精度の高い情報発信を行っていく。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学校運営	2-5 理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4	
	2-6 運営方針に沿った事業計画を定めているか	4	
	2-7 運営組織や意思決定機能は、規則等により明確化し有効に機能しているか	4	
	2-8 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	
	2-9 情報システム化による業務の効率化が図られているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育法、専修学校設置基準、各種法令、本校の運営方針に基づいて運営している。</li> <li>・2023年度においてはコロナの5類移行に伴い、有観客のイベント開催や学園祭での模擬店の実施など、学生のニーズに応えることができた。</li> <li>・理事会、評議員会は私立学校法に基づいて都度開催され、議事録を作成して保存している。 また、イーエスピー学園4校の定例会議を月に1回開催し、学園内での情報共有を行い、議事録については毎回全職員に周知している。</li> <li>・人事考課制度に基づき、各部署上長が年に3度人事考課を行い、この考課を踏まえて昇給及び賞与を決定している。 また、考課後の年3回、学校長が全職員と面談することにより、個々の問題点を早期把握し、スピード感を持って解決に努めている。</li> <li>・1年に2回、人事登用制度を実施し、基準を満たした職員の正職員化を促進している。 実績として2023年度は2名が契約社員から正社員へ、1名がアルバイトから契約社員にそれぞれ登用。</li> <li>・学校法人ESP学園規定集として、就業規則、服務規程、賃金規定、定年後再雇用規定、育児/介護休業等に関する規定、確定拠出年金規定、労使協定書等を明確に定めており、職員に周知して適切に運用している。</li> <li>・新入社員/クルーに対して、適切な部署配置を目指した新人研修・ジョブローテーションを行い、一定の成果を得られた。</li> <li>・学生/講師連絡用にGoogle ClassroomやWebによるワークフローの導入により、証明書発行やレンタル教室の予約などのペーパーレス化が実現し、業務の作業効率の向上につながることが出来た。</li> <li>・2023年度より経理処理に「楽楽精算」を導入し、電子帳簿保存法に対応するとともに、さらなるペーパーレス化と業務の効率化を進めた。</li> <li>・学生情報システムInfo Clipperの積極的な活用により、経理・事務・教務・広報・学生支援とのデータ共有と一元化を行うことで、各部署の連携強化につながっている。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画については、単年ごとにより明確な指標を打ち出し、職員全員が目標に向かって一丸となって取り組める組織体制の拡充を目指す。</li> <li>・2024年度より、学園4校において新しい人事考課制度を実施することになっており、部署目標・個人目標を設定することにより、タスクの管理と業務の達成度の可視化を目指し、より説得力のあるきめ細かい人事評価につなげ、職員がモチベーションアップできる環境を構築していく。</li> <li>・2025年の夜間部の再編を目指し、新たな学びのスタイルの構築に取り組む。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
教育活動	3-10 教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	
	3-11 学科毎に修業年限に対応した教育到達レベルを明確にしているか	4	
	3-12 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	
	3-13 教育課程について外部の意見を反映しているか	4	
	3-14 キャリア教育を実施しているか	4	
	3-15 授業評価を実施しているか	4	
	3-16 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	
	3-17 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4	
	3-18 資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4	
	3-19 資格取得の指導體制はあるか	4	
	3-20 資格要件を備えた教員を確保しているか	4	
	3-21 教員の資質向上への取組を行っているか	4	
	3-22 教員の組織体制を整備しているか	3	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学生の個性に応じた「才能・技術・能力」を高められるように、少人数制の授業を採用しており、業界のニーズに応えられる人材育成を目指し教育方針を実践している。</li> <li>・シラバスを導入し、各授業の到達目標を明記し、教育達成レベルを明確にして授業運営を行っている。</li> <li>・1年次10月に「Job Discovery」、2年次4月には「合同企業説明会」「ミュージック&amp;ワーク」を対面形式で開催し、学生のキャリア養成に取り組んだ。</li> <li>・「ビジネス文書検定3級」「コミュニケーション検定初級」の他にも、「舞台機構調整技能士」などスタッフ技術に特化した検定にも複数対応している。また、対策講座等を追加で設けたり、資格試験を本校で受験できるように認可を受けたりするなど、学生の資格取得率向上に向けて取り組んでいる。</li> </ul> <p><b>【資格取得試験前年度実施分】</b></p> <p>映像音響処理技術者資格認定試験/サウンドレコーディング技術認定試験/舞台機構調整技能士3級・2級/ProTools技術認定試験/MIDI検定/照明技術者技能認定試験2級/CADアドミニストレーター"Primary"認定試験/足場の組立て等作業従事者特別教育/フルハーネス型墜落制止用器具取扱特別教育/コンピュータサービス技能評価試験 ワープロ部門・表計算部門/Illustratorクリエイター能力認定試験スタンダード/Photoshopクリエイター能力認定試験スタンダード/ビジネス文書技能検定試験3級/第二種電気工事士試験/コミュニケーション検定初級など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に2回、授業アンケートを実施し、問題があった授業に対しては、講師に内容をフィードバックし授業の質の向上につなげている。</li> <li>・成績評価においては、年度初めのガイダンスで学生に説明の上、シラバスにも評価基準を明記し、各基準に沿った運営を行っている。修了認定基準においては、学則に記載し学生告知も行っている。</li> <li>・長期休暇前には期間ごとに蓄積された知識技術の成果発表イベントや特別セミナーを実施し、教職員を含めた関係者が成果の確認ができる環境を構築している。</li> <li>・例年、新年度開始前に各学科において全体講師会を実施し、授業内容の確認や指導項目のチェックなどを実施している。また、長期休暇中にもカリキュラムミーティング等を行い、情報共有することで授業の質にばらつきが出ないように取り組んでいる。</li> <li>・2024年度の新入生よりコロナの鎮静化を受け、学園4校にてiPadの無償配布を中止した。</li> <li>・より充実した学校生活を育めるよう、部活動（軽音部、ダンス部、演劇部、カメラ部）や課外活動（ボカロ部、各種交流イベント）にも前向きに取り組んでいる。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートにおいては、前期末と後期末の年2回に加え、6月にもアンケートを実施し、アンケート結果の授業へのフィードバックの方法も確立させ、授業の質の向上につなげていく。</li> <li>・授業アンケートの記入回収率改善に向けて取り組み、アンケートの精度アップにつなげていく</li> <li>・教務と学生支援課のさらなる連携強化を行い、キャリア教育の質の向上に向けて取り組む。</li> <li>・2024年2月1日より施行された、「テールゲートリフター特別教育」にもいち早く対応し、4月には学生向けに講習会を実施した。</li> <li>・新規講師向けの実践的な研修と、講師全体のスキルアップのための勉強会などの仕組みづくりを行い、教員の質の向上に向けて取り組む。</li> <li>・iPadの無償配布の中止に伴うオンライン授業等の受講体制について、環境整備も含めて取り組んでいく。</li> <li>・音楽業界全般に見られる「個の力の成長、拡大」に併せて、SNSをはじめとするセルフマネジメントに関する教育の拡充を目指す。</li> <li>・部活動に関して、2024年5月より「ライブ部」を導入し、より音楽学校としての活性化を図る。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学修成果	4-23 就職率の向上が図られているか	4	
	4-24 退学率の低減が図られているか	4	
	4-25 資格取得率の向上が図られているか	4	
	4-26 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<p>・開校当初よりキャリアサポートセクションを設け、組織的な学生指導体制を築いており、教務担任と連携を図りながら、学生一人ひとりの状況を常に把握し、個別指導を行うことで、学園生活の充実と就職率の向上に取り組んでいる。</p> <p>【2023年度 就職関連データ】  就職希望者数 168名 就職率 90.5%（前年比2.8%増）</p> <p>・現在の多様なエンタテインメントの活動に対応するため、メジャーのみならず幅広いジャンルや企業と学生をつなげるようなオーディション等の紹介や開催を実施できた。また、クリエイター志望の学生とアーティスト志望の学生をつなげるマッチングプロジェクトを実施するなど、学生の音楽活動の幅を広げることができた。</p> <p>【2023年度 デビュー関連データ】  オーディション件数 2023年度 74件（昨年度より17件減）  所属契約件数 8名</p> <p>・キャリアサポートセクションには資格取得を支援する担当者を配置しており、対策授業の実施、団体受験申し込み等を行なっている。また、合格率、合格実績も管理しており、取得対策や合格率の推移分析に活用している。</p> <p>・2023年度の退学者数は前年度に比べ13%程増加となり、退学者数の減少は達成できなかった。</p> <p>【2023年度 進級/卒業率】  2年 卒業率 92.4%（前年比2.2%減） 1年 進級率 83.6%（前年比3.0%減）※昼夜間部合計</p> <p>・業界で活躍する卒業生（アーティスト・スタッフとも）とは、コンサートの協賛やバックアップ、ゲスト講師として招聘するなど、様々な形で連携は深めることが出来た。</p>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<p>・学生に対する資格試験の周知と、資格取得に対する啓蒙活動をさらに強化していきたい。</p> <p>・退学者削減においては継続的な課題となっており、今年度は進級率86%を目標に取り組んでいきたい。また、教務の取り組みのみに頼ることなく、組織としてフォローが出来るシステム作りを目指す。</p> <p>・活躍する卒業生のみでなく、全ての卒業生の社会的評価の追跡はまだ困難を伴う。何らかのシステム構築が必要と感じる。</p>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学生支援	5-27 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	
	5-28 学生相談に関する体制を整備しているか	4	
	5-29 留学生に対する相談体制を整備しているか	4	
	5-30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	
	5-31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	
	5-32 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4	
	5-33 課外活動に対する支援体制を整備しているか	4	
	5-34 保護者との連携体制を構築しているか	4	
	5-35 卒業生への支援体制を整備しているか	3	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職支援のキャリアサポートセクション、デビュー支援のデビューサポートセクションを設置しており、専任のスタッフが就職・デビューの情報収集を行い、校内掲示やメールでの通知などにより、学生に情報提供を行っている。</li> <li>また、東京・福岡に設置する姉妹校の求人情報やオーディション情報も共有しており、幅広い情報を提供できる環境を整えている。</li> <li>・オーディション情報は前年度同数程だが、求人数は1割増となり、多くの求人の下、23年度の内定率は90%を超えた。</li> <li>・2023年度より学生支援室を本館から1号館1Fエリアに移動。フルリニューアルを行い従来の2倍の学生支援スペースを確保し、最大5組の面談可能なスペースに加え自習エリア、PC閲覧エリアも拡充し学生サービスの向上を図っている。</li> <li>・学科内で担任制度をとっており、遅刻や無断欠席の増加といった問題行動が見受けられた場合には、速やかに電話連絡等を行い、個別に問題解決に向けた取り組みを実践している。</li> <li>・学生相談に関しては、担任が常時学生相談を受け付けているほか、定期的に個別面談を実施し、問題が表面化する前に取り組める体制も整えている。</li> <li>・インターナショナル・コミュニティ・センターを設置し、専任のスタッフが留学生対応する体制を整備している。また、留学生に向けた学校独自の奨学金制度を用意し、留学生を経済的に支援できる体制を整えている。</li> <li>在学生の個別対応に追われたが、在籍管理を適正に行っていた結果、大阪入国管理局より「適正校認定で、問題在籍者が発生しない期間が3年継続した」ことから、「適正校(在籍管理優良校)」の認定を受けている。</li> <li>・高等教育の修学支援制度、従来の学生支援機構の奨学金制度、提携の教育ローンなどにも対応し、学生の経済的側面を幅広く支援している。また、学校独自の学費の分納制度を用意するなど、独自の支援も行っている。</li> <li>・2023年度募集より、イーエスピー学園4校合同による特待生奨学金制度という、学校独自の奨学金制度をスタートさせ、新たな支援体制作りに取り組んでいる。</li> <li>・毎年4月に健康診断を実施し、全学生の健康管理を行っている。</li> <li>・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して、居住情報の提供に努めている。</li> <li>・企業研修、就職活動、学校が提携するライブ研修、音楽活動（演奏活動）等、学校が認めた課外活動においては、公欠制度を適用して支援を行っている。</li> <li>また、公欠制度に関してはルールを設定し、企業様へ理解を求め、学生にとって学びの障害にならないように配慮している。</li> <li>・隔月で保護者向けに郵送していた「エンタ通信」を、保護者が確認しやすいよう、SMSを使用した配信に切り替えて学校情報を提供しており、保護者からの評価も概ね好評となっている。また、各学期終了後には成績表と出席状況を郵送し、学生の状況を伝える体制を整えており、長欠の学生においては保護者にも電話等で連絡を入れ、家庭と共に問題解決に向けた取り組みを実践している。</li> <li>・スタジオレンタル及び奨学金面談の予約システムを構築し、より学生が利用しやすい環境構築に取り組んでいる。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、芸能活動においては、デビュー実績だけにとらわれず、現在の多様な音楽活動の有り様に対応した、多方面にわたる音楽活動支援に取り組むため、活動促進課外授業等を開催し、時代に沿った学生支援の実践を引き続き目指す。</li> <li>また就職希望者対象者にも就職意欲促進、及び応募書類作成講座等を開催し、就職活動者・内定率の向上を図る。</li> <li>・教務スタッフの学生支援対応力の強化に取り組み、各コースでの退学者数削減及び学生満足度の向上につなげていく。</li> <li>・留学生に関しては、教育の部分だけでなく、日本の習慣・常識・法律解釈など、日常生活に必要なアドバイスや相談も行っているため、組織的・人的拡充が必要となってくる可能性有り。引き続き安心して生活、就学できる環境づくりに取り組む。</li> <li>・修学支援・奨学金の対応に関しては、安定健全な対応ができるよう、組織的なバックアップ体制を強化していく。</li> <li>・イーエスピー学園独自の特待生奨学金制度を継続して実施し、さらなる拡充を目指す。</li> <li>・昨今増加の傾向にある身体的及び精神的な体調不良者のケアに関して、組織的な取り組みをさらに充実させる必要性を感じるため、医師やメンタルケアとの連携に関する取り組みを検討していく。</li> <li>・卒業生に向けては、キャリアサポート及びデビューサポートを継続して受けることができる体制になっており、卒業後のキャリア形成に対しても支援を行っている。ただし、卒業生の社会的評価の追跡も含めて、さらなる仕組みの構築が必要。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
教育環境	6-36 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4	
	6-37 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	
	6-38 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	
	6-39 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設、設備に関しては、担当者が中長期改修計画(15年プラン)を作成。これに基づいて毎年保守、メンテナンスを行い、学生にとって満足できる教育環境を提供している。</li> <li>建物内外の安全確認として、職員による定期巡回を実施し、故障や破損などによる危険個所の早期発見・早期改修に努めている。</li> <li>学外実習については、業界各社の動向を把握しながら、各学科の目的に沿った内容で、特別活動を外部にて実施している。</li> <li>ライブハウス実習、舞台演技実習、アコースティックピアルコーディング実習等。</li> <li>「超現場主義」を標榜し、年間約50箇所を超える大規模な音楽フェスティバルやメジャーアーティストのコンサート等へ、学生をインターンシップとして参加させている。2023年は過去最高のイベント研修(56件の現場、143日)に参加した。</li> <li>学生生活の充実を図る為、部活動も実施しており、「軽音部/部員数50名」「ダンス部/部員数39名」「写真部/部員数10名」「演劇部/部員数20名」「ボカロ部/部員数30名」がある。</li> <li>学生の安全及び各損害賠償に対応するためにインターンシップ、研修期間中含め以下の保険に加入している。 (学生生徒災害傷害保険・感染予防費用補償特約・インターンシップ活動賠償責任保険・学校賠償責任保険・個人情報漏洩保険・サイバーリスク保険)</li> <li>2023年度はコロナによる規制緩和に伴い、姉妹校である全米音楽学校協会に認可された音楽学校「ミュージシャンズ・インスティテュート・ハリウッド」への海外研修を実施。参加学生にとっては、短期間ではあるが生活環境も含め、本場アメリカのエンタテインメントを経験できる貴重な経験を積んでもらうことが出来た。また、本年度は新たに韓国研修も実施し、YGエンタテインメント傘下YGXアカデミーにて本場K-POPのレッスンを受けることが出来た。</li> <li>学校防災計画及び学校災害対策規定をマニュアルとして設けており、火災震災に備えた「災害避難訓練」を全学生、職員と共に毎年実施している。2020年よりシミュレーションでの避難訓練実施となっていたが、今年度は実際の避難訓練を実施し、職員、講師による避難場所への誘導、避難者の点呼、防災対策、本部長への安否報告、学生自身による消火器訓練等の実践的な実施となった。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外研修においては、今年度も募集実施を予定している。</li> <li>開校20年を迎えようとしている現在、建物・設備の老朽化による入替や時代にあった新しい校具・教具の導入が必要。現場での重要度、経費との兼ね合いを鑑み教務と連動のうえ 優先順位を明確に定めた計画を進める。</li> <li>防災に関しては、職員、講師、学生への定期的な周知が必要と感じている。</li> <li>避難訓練時以外にも動画等により講師・学生が避難時の行動について確認できる環境を整え、防災に向けた啓蒙活動を行うように努める。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
学生の募集と受け入れ	7-40 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	4	
	7-41 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	4	
	7-42 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4	
	7-43 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4	
	7-44 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	
	7-45 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年度は、年間28回のオープンキャンパス、体験授業を開催し、入学希望者や保護者に対して、学科別カリキュラム、学納金、就職・デビュー状況、学校生活全般についての説明を行っている。</li> <li>また、体験授業においては、参加者や保護者に対して別途個別相談ブースを設けて、より具体的な対応ができる環境を整えている。</li> <li>個別学校説明会、平日学校見学会にて、個別状況に応じたアドバイス・対応を専門の職員が実施している。</li> <li>体験授業、個別学校説明会等において、オンライン形式での対応も実施し、ニーズに合わせた幅広い形で対応している。</li> <li>来校が困難な地方都市へ向けて年間2回、職員が出向き出張説明会や出張体験授業を実施した。</li> <li>また、遠方の方のために交通費補助として利用できる交通費サポートチケットを配布し、遠方の方の来校負担の軽減に取り組んだ。</li> <li>大阪府の定めた運用基準に沿って、入学選考を適切に実施している。</li> <li>学納金に関しては、妥当な水準を把握しながら、学科・コースの必要経費から算定した金額を募集要項で明確に提示している。</li> <li>入学辞退者に対しては、納めた学納金を適正に返還するよう取り組んでいる。</li> <li>高等教育の修学支援制度の対象機関として、適正な対応をしている。入学者が給付型奨学金対象者の場合、採用決定通知等の証明書類の提出を条件に入学前の学費納入を相殺方式とし、入学者の経済的な負担軽減に努めている。</li> <li>軽音連盟大阪様との取り組みで全国軽音フェスティバルやHSL in ESPを開催して、高校生にも学校の認知を上げる。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験授業・個別説明会・平日見学会の参加者より集めたアンケート内容を分析し、より適切な学生募集活動につなげられるよう、有益な情報活用を確立を目指す。</li> <li>SNSでの情報を積極的に発信して、学校認知のアップを目指します。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
財務	8-46 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	
	8-47 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	
	8-48 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	
	8-49 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	4	
	8-50 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4	
	8-51 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2024年度の入学生に関しては、わずかではあるが前年より増加、進級も一定の進級率を維持出来ており、結果として安定的な在籍者数を確保できている。学校法人全体で見ても、4校とも入学者数が前年より増加しており、健全な状態にあるといえる。</li> <li>・施設、設備の経年劣化による修復、補修等が増加傾向にあるが、単年計画・中長期計画をベースに教育環境を継続して整えている。</li> <li>・財務情報については、学校法人イーエスピー学園サイトで公開を実施している。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動の充実を維持継続するには、多種多様な要因に左右されない財務基盤の充実と強化が必要となる為、引続き入学者の一定数確保及び退学者数の低減対策による進級者の適正数確保を図り、学費収入を安定させて財務基盤を整える。</li> <li>・各部署から提出のあった当該年度の経費予算をベースに予実績管理を徹底し経費適正使用・無駄の削減に努め事業計画との整合性を図る。</li> </ul>		

大項目	点検・評価項目	自己評価	
法令等の遵守	9-52 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	
	9-53 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	
	9-54 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	
	9-55 自己評価結果を公表しているか	4	
	9-56 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	
	9-57 学校関係者評価結果を公表しているか	4	
	9-58 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種法令、施行規則、設置基準のすべてを満たしており、常時変更に対応できる体制を整えている。</li> <li>・学則に関する変更が生じた際には、速やかに大阪府へ届出を行っており、常に最新の学則をベースとして運用している。</li> <li>・2023年度も大阪府から各種通達事項があったが、指導要綱に準じ適正な対応・報告を行った。</li> <li>・個人情報保護の内部規程を整備し、各部署での取り扱いが適切に行われるよう、体制づくりを強化した。特に学生の在籍管理、成績管理をメインとするシステム管理のデータの取り扱いに関しては、個人情報取り扱いに関する啓蒙を全職員に対して定期的実施し、帳簿及びシステムデータの保管管理を厳密に行っている。</li> <li>・自己評価委員会を設置し、自己点検の位置づけ、目的、方針を確認し、自己点検・自己評価を実施している。また、自己評価結果は本校ホームページで公開している。</li> <li>・学校が選任する学校関係者によって、自己評価の結果を評価する「学校関係者評価」の実施し、評価結果を本校ホームページで公開している。</li> </ul>		
	<b>課題/目標/その他</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種法令及び個人情報保護に関しては、教育・周知活動を徹底し、全職員が同水準の理解度で業務にあたるよう継続して取り組む。また、これらが順守されているかどうかを定期的にチェックする方策が必要だと感じている。</li> <li>・重点目標や評価項目に照らしてガイドラインを参照しつつ、学校関係者評価委員を選任し、「自己評価結果や結果を踏まえた改善方策」「重点目標や評価項目」「改善に向けた実際の取組」等の評価をしていただき、来期の重点目標や改善施策につなげていく。</li> <li>・修学支援新制度専任社員を配置しており、学籍担当者、学費請求担当者、教務担当者との連携を強化し厳密な運営を行っていく。</li> </ul>			

大項目	点検・評価項目	自己評価	
社会貢献 地域貢献	10-59 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	
	10-60 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	
	10-61 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4	
	<b>現状分析/総括</b>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪府高等学校芸術文化連盟軽音楽部会主催の全国大会「軽音フェス」への協賛や、高等学校軽音楽部連盟大阪「High School Live」への施設提供など、高校生の音楽活動に対して少しでも力になれるように努めている。</li> <li>・中津地域活動協議会が主催の「中津万博2023」に参加し、音楽イベントの運営やフォトスポットの設置、地域の魅力を伝えるパンフレットの作成など本イベントコンセプトとする100年後も輝く中津の未来というテーマに沿った様々なコンテンツへ学生が関わった。</li> <li>・本校の奨励、支援のもと、毎年学生が主体となり、「2年間お世話になった中津を盛り上げたい！恩返ししたい！」をコンセプトとした卒業制作イベント「ディプロマサーキット」を実施している。学生達で実行委員会を設け、近隣の福祉会館、カフェ、レストラン、ライブハウスを会場とし、地域の活性化に貢献した。今年度は有観客で実施したが大きな問題も無く、出演アーティスト合計89組、来場者827名と学生主催イベントとしてはかなり大規模なイベントとなっている。</li> </ul>		
<b>課題/目標/その他</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来期は本校が開催するイベント以外にも、様々な近隣で開催予定の地域活性化イベントにも積極的にコラボレーション参加し、社会貢献・地域貢献・ボランティア活動に積極的な参加するように取り組んでいく。</li> <li>・今年度より「青春エンタメ応援団」と題して、「部活に出張レッスン！」「軽音関連部限定の体験授業」「学園祭のスタッフお手伝い！」など若者の活動を幅広くサポートしていくプロジェクトをスタートしている。</li> </ul>			